

女性のための生活情報紙

リビング

フジサンケイグループ

農家のセガレが歩みだした 日本の農業を救う一歩

倅(セガレ) コダマミツシさん

東京のイベント会場で、親父の作った野菜を並べて売るセガレ



農家を継がずに東京へ(千葉県市川市)に聞いた。出て働く倅(セガレ)が、活動は多岐だ。東京の親父の顔をプリントしたTシャツを着て、親父が作った野菜を売った野菜を売る。始まりは、ビジネス勉強会で知り合った農家のセガレ3人。家業を継いでいない後ろめたさもある。日本の農業に関心を持って、相持つ層、持たない層の溝、閉塞感も感じていた。「まず、隣人である友達に農業を伝えられずに、どうして多くの人に伝えられようかと。発起人ひかけ、里山へヒクニックの1人、コダマミツシさん

セガレの農家の田植えに若者が集った



「農家のセガレ・セガールが、自分1人でなにが始めるのは大変です。じゃ、一緒にやりましょ



親父のTシャツを着た発起人3人。右がコダマ氏。メルマガ会員は約200人。農家の倅&娘(セガール)、就農者、興味がある友達など。会員には、福刈り来ない?野菜売らない?食べない?などお誘いメールが来る。http://www.segare.jp/

「じゃ、ついでに草取りもしちゃいましょうか」。楽しんだ上、作業が大変な農地のメンテナンスもできて一石二鳥だ。

日本の農業の底上げができたなら、国レベルの産地消、エコ活動になる。コダマさんには、もう一つ大きなねらいがある。米作りツアーは親父の田んぼ。そして、母親が田舎料理でもてなす。「親となにか一緒にすること、実家に何度も電話するようになった。一段に会話が増えました。親との間にプロジェクトを作る。オススメです」

